

環境保全のボランティア体験講座 2024 第2回講座レポート

第2回目の講座は6月23日(日)に大阪府豊能郡能勢町歌垣地区での開催です。

この日の受講生は16名。雨天だったので予定とは違う変則的なスケジュールで臨機応変に動くことのお伝えと班分けの確認をした後、貸切バスに乗り込みました。

現地の駐車スペースにバスが到着後、今回お世話になる歌垣 SATOYAMA 楽舎へ徒歩で移動しました。



途中、晴れの日だったら活動する予定だった畑の横を通過して、皆さんにそのことをご案内しました。前年度の開催時より、害獣対策のネットを支える支柱が太い竹製のものに変わっていたのが印象的でした。



到着してすぐに、本日お世話になる歌垣 SATOYAMA 楽舎の代表を務めておられる湯浅淳子さんのご案内をしました。今回は週の初めから、開催日が雨天予想とのことで調整を重ねてきました。事前準備もかなり行って頂いたので、ありがとうございました。



代表の湯浅淳子さんのご挨拶の後、このあと雨が心配されるとのことです。予定を早めて全体での記念写真です。撮影後、まずは PowerPoint による活動の説明などをお聞きする為に母屋にあらがせていただきました。



母屋のなかで出迎えてくれたのは、数多くの可愛い烏骨鶏の雛たちです。先日 11 日のお打合せ時にスタッフが見た時より大きく成長していました。



はじめに PowerPoint による、能勢町や活動地のご紹介がありました。湯浅さんは 2017 年にこの地に移住され、築 250 年にもなる古民家を維持管理されています。雨だったのが本来 30 分の予定だったスライドによる座学は、1 時間を超えるロングバージョンでお願いしていました。





スライドトップの写真です。

歌垣 SATOYAMA 楽舎の全景が写っています。季節により様変わりする風景等が続き、受講生は静観していました。

湯浅さんの説明に、メモを執る受講生の姿が数多く見受けられ、熱心な受講生が多いと感じました。



こちらは質問コーナーで発言する受講生の様子です。



沢山質問が挙がったので幾つか以下にご紹介します。

Q. 大変だったことはあるか。

A. 不自由を楽しんでいる。暑さが大変。9 時を過ぎると暑くて農作業が出来ない。夕方は 17 時以降でないと動けない。

Q. カラス除けの仕方について。

A. 畑の四周に糸を張り巡らせる。鳥は羽に糸が絡まるのを大変嫌がる。CD は効果がない。やっている人は周りにいない。

Q. イノシシはジャガイモしか狙わないのか。

A. 地中のものは全てひっくり返す。雑食で、なんでも食べる。

Q. タガメは農薬がだめなのですか？

A. そうです。歌垣の水はきれいで、私たちも井戸水を使っている。気持ちいいですよ。

Q. 害獣が増えていますが、狩る人たちの人数は増えていきますか？

A. 猟友会の人も 60 人くらいいるが、ライフルを使う人は殆どいない。かご罠が殆どである。

Q. シカやイノシシが増え続けている理由は？

A. 里山管理がされなくなったから。人が手入れしなくなった上、人家のすぐ近くにレストランがあるから、そこまで寄ってくる。そしてそれは食べ放題。罠の仕掛けは地主に了承を得てからになるが、「あんたそんなん食べますのん？」などと言われたり、「血は流さないでくれ」など、否定的な人は多いようです。

また、お話の中で『キツネは「ギャンギャン」鳴く。「コンコン」とは鳴かない。誰が言い始めたんだろうね。』との湯浅さんの言葉に、受講生はみな笑顔になっていました。

座学では湯浅さんの自己紹介やここ能勢町の特徴、今回晴れの場合に活動する予定地だった保全地の、主人公ともいえるキマダラルリツバメやハリブトシリアゲアリといった昆虫など、様々な内容について学ぶことができました。

その後、まだ若干お時間がありましたので、協会スタッフのほうから、湯浅さんのスライド中の情報の補足説明をさせていただきました。

大阪府北部や兵庫県川西市周辺の地域、いわゆる北摂地方で、しいたけ栽培や炭に使われるクヌギ原木の時代と共に変容する需要と供給のバランスの変化、それに影響される生態系と他地方での木材需要についてのお話です。



さて、一通りお話が終わったところで、お待ちかね昼食の時間です！

左の写真は、このあと受講生にふるまわれるご飯が入った羽釜の様子。

本来は、受講生が農作業途中で焚き付け体験をする予定でしたが、雨天とのことで予定変更で湯浅さんの旦那さんに 10 時頃から焚き付けをしていただけたものです。中にはふっくらとしたご飯ができている筈です☆

羽釜の蓋をパカッと開けると中からは真っ白に炊き上がったふっくらご飯が☆
大きなしゃもじでかき混ぜたあと、それぞれが持参したカレー用の器に受講生たちが盛っていきま
した。



盛り付けたカレーと共にハイ！チーズ☆

右下の写真は盛り付けの一例。

サラダの食材は、現地で育てられたものを、本来であれば受講生 18 名が摘み取る予定でしたが、雨の降る前にご夫妻でご準備頂けたようです。ありがとうございます。

サラダにかかっているドレッシングも自家製とのこととても美味しく頂きました。

鹿肉は赤身で飽きが来ないからバクバク食べられます☆

このお肉も、害獣駆除で捕獲された生きた鹿の解体からご準備頂いているものです。

1 個体 1 時間半くらいで解体できるそうです。



スタッフの号令で全員そろってからいただきました。様々な所属からの参加なので、団体の垣根を超えた会話で楽しい時間になったと思います。



昼食のあとは雨天スケジュールとして、近隣にあり大阪府緑地環境保全地域である地黄湿地に向かいます。現地で雨天の場合、資料を出しての説明が困難なことから、先に屋内で現地の紹介を、リーフレットを使いながら行いました。



左の写真は地黄湿地の魅力がたっぷり掲載されているリーフレットです。日本一小さなトンボや、木に卵を産むカエルなど、さまざまな希少な野生動植物が生息していることが解説されています。

またバスに乗って湿地の近くまで移動して徒歩で現地に向かいます。
バスの後部座席では何やら楽しそうに会話が弾んでいる様子が見られますね～。



徒歩での移動途中、モリアオガエルの卵塊を発見しました。
赤い矢印の先にある、白い塊がそれにあたります。
孵化するとオタマジャクシはその下にある水溜りに落ちる仕組みです。



緑地環境保全地域に指定されて施錠されているため、本来は許可なく柵内に立ち入ることができません。湯浅さんは許可証と柵の鍵を持っておられるのでご案内して頂く事ができました。また、動植物の採取は一切禁止されています。地黄湿地は道路を隔てて上池・下池に分かれています、まずは上池の観察です。



左下の写真は、上流(源流)部方向を撮影しています。ボランティア、学識経験者、行政の参画を得て、水環境・日照環境の改善など、周辺林も含めた大幅な湿地環境の再生に向けた取り組みがされているとのお話がありました。



木道を歩いてみました。身近に観察できるよう、更には自然に配慮した工法で設置されています。



右下の写真は木道から右手を見た様子です。





次は下池の観察です。写真のように爽快な風景が続いています。



一行はこの湿地で最近増えだしてきてくれているハッチョウトンボを探しはじめました。



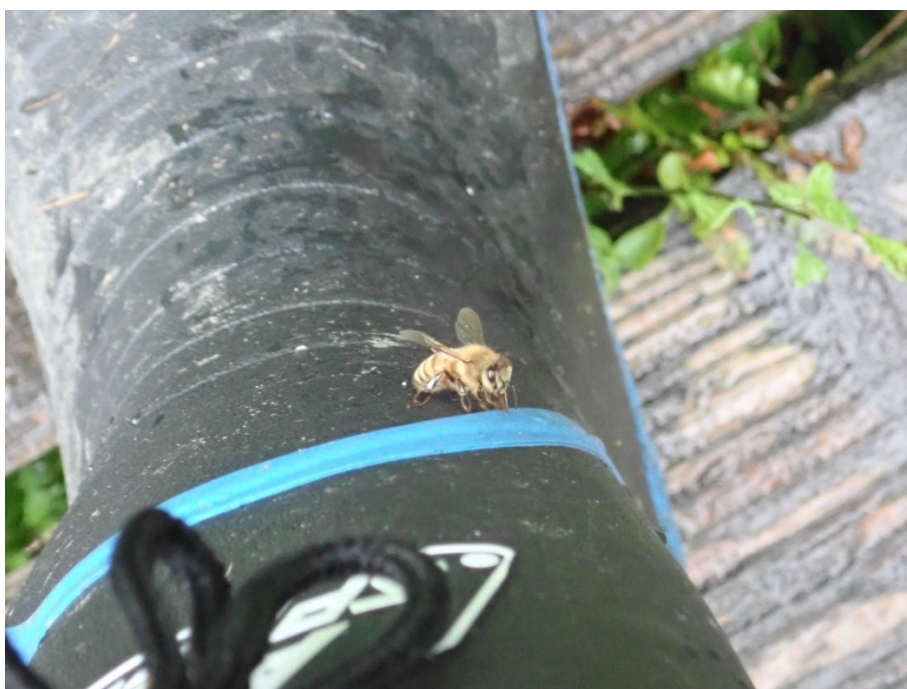
これがハッチョウトンボのオスです。1 円玉くらいの大きさの、日本一小さなトンボで、大阪府のレッドリストでは絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。





雨が上がってきたので傘を畳めました。
木道の上から、付近に生えている貴重な植物
の説明を受けています。まさにフィールドミュー
ジウムです。

右の写真は、右下の写真は
食虫植物のモウセンゴケで
大阪府の準絶滅危惧に指定
されています。一面に長い毛
があり、その先端から甘い香
りのする粘液を出します。こ
れに引き寄せられてやってき
た虫がくっつく、粘毛と葉が
それを包むように曲がり、虫
を消化吸収します。



気付けば足元でブンブン
羽音が。セイヨウミツバチ
が長靴についている何か
を舐めとっていました。あ
なたはどこからきたのか
な～？



左は、下池の一番下流側付近の写真です。右下で受講生が覗き込んでいるのはハッチョウトンボの産卵を目的とした水槽です。人工芝などが沈められていました。

左下の写真はその水槽。右下の写真の白い塊はモリアオガエルの卵塊。基本的には外敵の少ない樹上に産み付けられますが、中には陸上付近に産む個体もいるようです。



右の写真はマツモムシ。

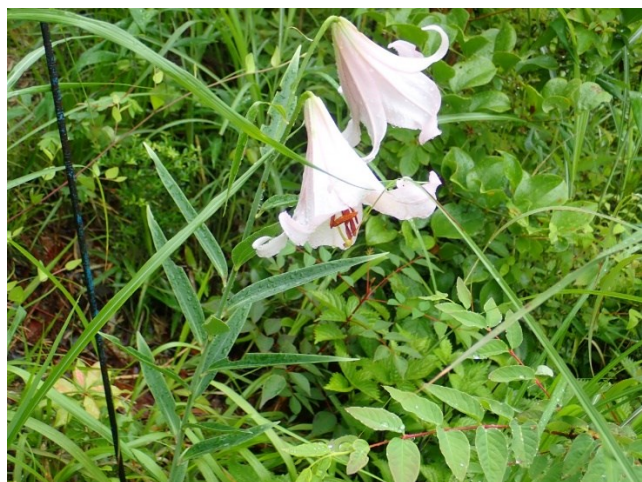
水面に逆さまになって浮かんでおり、尻先を水面から出して呼吸をしています。長い脚を使って器用に泳ぎ、小魚やオタマジャクシ、他の水生昆虫、水面に落下した昆虫などを捕らえます。そして針状の口吻を突き刺して消化液を送り込み、溶かした肉質を吸汁します。



次は下池にある、保護柵内に立ち入ることに。

四方に張り巡らせてあるネットは、シカなどの大型哺乳類などから希少植物を守るために設置されています。

ネットの外よりも植物の背丈が高く、様々な種類が混生していて、シカの害がないことが伺えました。



保護柵内のササユリ。綺麗に咲いています。
匂いについても、皆さんもご存知、ユリ科独特の香りを放っていました。

柵外に戻り、まとめの様子です。





その後、バスに乗り、また歌垣 SATOYAMA 楽舎近くのバス駐車スペースに戻ってきました。母屋に戻ってふり返りの予定です。

雨が小康状態になってきたので、安全に注意して希望者のみ薪割り体験をしてもらいました。一人が割り始めると、皆さんどんどん率先して手をあげて、次々交代して体験していました。



左の写真のように、最後は湯浅さんのご主人に豪快にカチ割って頂きました。1 発で割るにはなかなか難しく、体力も必要とされることから、この体験では昔の暮らしの大変さを知ることができました。

さて、母屋に入ってふり返りです。

アンケート用紙には皆さんの思いや感想を本当に沢山記入して頂けました。

例年の講座では、受講生に自主的な挙手で発表をお願いしても手が挙がらないので当てさせて頂いていたのですが、今回の受講生では発表者3名全員が率先して手をあげ、積極さを感じることができました。



ふり返りが終わると、右下の写真のように湯浅さんに向かって皆でお礼を言いました。



今回は雨天の影響で、受講生が講座内で行う筈だった農作業の一部(食材の採取)を、ご夫妻に事前に作業頂きました。
大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



バスで出発地点の長堀橋まで戻ってきて、皆さんへの今後の連絡の仕方についてご意見や同意を頂いた後、解散しました。
皆さんお疲れ様でした。



今回、雨の影響で開催自体が心配されましたが、無事開催できて事故もなく終了しました。雨で本来の目的だった自然環境保全地での保全活動、農作業はできませんでしたが、適度に止み間があって不自由なく講座を進めることができました。また、午後に行った地黄湿地の見学は、大自然の中で希少野生動植物を多数見ながらの講義だったので、受講生の満足度が高かったように感じられました。この経験で、興味・関心から一歩進んだところまで動きがあることに事務局としては期待したいところです。

アンケートでの記述内容としては以下のようなものがありました。

・能勢町の環境保全の炭・栗・蝶は自然界の中でつながりがあったことにとっても感動しました。環境保全の必要性を知れて良かったです。

・今日は環境保全の講演を聞いて里山や森林での暮らしは常に自然との勝負であることが感じられた。少し目を離すと他の生物に鳥が捕食され、作物が荒らされてしまう現状を知り、引き継ぐ若手も少なくなってしまうのうなずけた。しかし、誰かがやらなければ自然は都市開発によって消えてしまうので環境保全は必須であることが感じられた。

・湿地を初めて見て、綺麗さに驚いた。管理放棄されると湿地は失われていくので、人間の働きかけの大切さを実感した。湿地には都会では見られない多くの生物が見られて楽しかった。植物を保全するには動物への対策が難しいと感じた。

・里山が現在直面している問題や実際の生活なども知れ、とても有意義な時間を過ごせました。また、地黄湿地での生きもの観察がとても楽しく、珍しい生きものも見れとても良かったです。

・地黄湿地という、普段では立ち入れない貴重な場へ立ち入らせていただけただけでもありがたいのに、ハッチョウトンボやアカハライモリ、ササユリなど様々な生態系を実際に見ることができてとても良かった。素晴らしい取り組みで良い環境を守っていく活動を直に見ることで、より参加意識が高まった。住んでいるところの近くにも保全系のボランティアがないか探してみたい。

・湿地に直接行くのは初めてだったので、山道を歩いて地黄湿地を見たとき、急に森林が開けて植生の雰囲気が一気に変わったのを見て感動しました。日常では見ることのない生き物や植物を見ることができてとても良かったと思う反面、その管理の難しさ、地域の少子高齢化及び環境保全に関わる人の減少など様々な問題が垣間見えました。今後色々なボランティア活動を通じて自分に合う活動を見つけ、参加していけたらと思いました。

・もともと興味のある分野なので、がんばって就職先を探そうと思いました。

以上のような回答が複数寄せられました。

雨で今回はできませんでしたが、この保全活動地でのシンボル「キマダラルリツバメ」の観察や、それを取り巻く里山ならではの環境保全もいつかご経験いただけたらと思います。活動協力の意欲向上を伺える内容も見られたことから、活動地の今後もですが、更に皆さんの将来も楽しみな結果となりました。